

迫力のラリーに歓声

プロ運転の車に試乗も

城陽

砂利道を猛スピードで駆け抜ける自動車レースのイベント「ラリー」が2日、城陽市長池の山砂利採取地で開かれた。大勢の家族連れやファンらが、大

きなエンジン音とともにコースを疾走する車の迫力に歓声を上げた。

1周1・2キロのコースのタイムを争う競技では、全国から30台が出場。車体を横滑りさせてカーブを曲がる

を試験的に行い、今年は初めて一般のギャラリーにも開放した。

城陽商工会議所の青年部が、地域を活性化しようと企画した。昨年に関係者だけでラリー



京都国立博物館所蔵

名品手帳

有職立雛(狩衣姿)

1面から続く

有職雛とは、装束の調製や着装を家業とする公家の監修のもと、公家装束を忠実に映した雛人形。公家や上層武家のために誂えられた特別注文品である。町雛は、公家の正装である束帯姿を模

2級1対
江戸(明治時代)19世紀



砂利を巻き上げながらカーブを走行するラリーの車(城陽市長池)

ドリフトなどダイナミックな運転で魅了し

城陽市出身のラリー

農業支えた思い出語り合う

綾部「新4Hクラブ」が集い



思い出話に花を咲かせ、旧交を温める参加者(綾部市味方町)

1960年代前後に農家の若手後継者として活動した人たちがつくる「新4Hクラブ」の集いが2日、綾部市のホテルであり、府内各地や三重、兵庫県からの参加者が思い出を語り、旧交を温めた。

ドライバー福永修さん(43)らプロ選手2人子どもたちは「ジェット」が運転する車に同乗す

トコースターみたいで

楽しかった」と興奮した様子で話していた。(柿木拓洋)

英語の「頭」「心」「手」「健康」の頭文字日から名付けた「4Hクラブ」は、よりよい農業や農村づくりに取り組み青少年組織として各市町村で結成された。栽培技術の研さんや情報交換の場として、最盛期には会員が府内で約1500人に達したが、農村の



動物愛護や診療所充実

南

人と動物との共生を考える「京都動物フォーラム」(京都市獣医師会主催)が2日、中京区の府立総合社会福祉会館で行われた。市民約250人が参加し、府と市で201

人間と動物の共生にフォーラム(京都市中社会館)

1993年に舞鶴市で会合があったのを機に、農業青年クラブOBの組織として新4Hクラブが発足。

都市化などで現在は和東町に残るのみという。